

第 8 期
報 告 書

2016年4月 1日から
2017年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

2016年度事業報告書

当会が一般財団法人として発足し8年が経過し、協会外部への動きをより意識した年となった。

主な主催事業としては、全国大会3大会の初会場での開催、公認指導者講習会集合学習④の実施と日体協指導者制度に合わせた統合、日本代表アジアカップ派遣が挙げられるが、体育館以外・公式競技ルール以外の事業への取り組みも始めている。

財政面の影響としては、まず指導者関連の資格取得者の大幅な伸びによる会員収入増加が目立った。全国大会においては、開催地コンベンションからの支援内容と開催地の意志を重視して計画を進め、製作物の内容・販売方法をさらに見直した。また、他各事業に於いても収支のバランスの取れた実施を目指したことにより、著しく状況が改善した。

ただし、小学生競技チーム(D1・D1G)登録は引き続き減少しており、一年を通じてチーム登録の無い県が発生、またシニア競技者も新規に関しては伸び悩みが見られ、課題も残された。

事業規模の拡大に伴い必要な情報や人材が内部のみでは不足している状況も生じており、今後もバランスをみながら協会外部の組織との連携をさらに模索していく。


1. 全国競技会

① (小学生) 全日本ドッジボール選手権 (夏)・春の全国小学生ドッジボール選手権 (春)

まず会場については、初利用の手間とリスクよりも外部への広報普及の価値を重視し、いずれも初開催会場で実施した。

地元コンベンション・コミッションとの連携を意識しての準備を進め、埼玉においてはブース専用の会場を準備、また北九州においては市との共催事業として、競輪施設の広大なスペースを活用し、メインアリーナ4面併設、アリーナ内での全選手観戦等、開催方法に工夫を重ねた大会となった。

参加チーム構成としては、年間を通じて青森県から代表チームの選出が無く、全都道府県からの選出には至らなかった。大会全体の収支に影響は無く引き続き安定しているものの、実質的に協会活動の土台となる大会の為、再生に向けての取り組みが改めて必要となった。

		 スポーツ振興基金助成事業 <small>独立行政法人日本スポーツ振興センター</small>
日時	2016年8月14日(日) 9:00~17:00	2017年3月26日(日) 9:00~17:00
会場	さいたま市記念総合体育館(Vアリーナ) 埼玉県さいたま市	北九州メディアドーム 福岡県北九州市
共催		北九州市・北九州市教育委員会
助成団体	さいたま市スポーツコミッション (公財)ミズノスポーツ振興財団	(公財)西日本産業貿易コンベンション協会 スポーツ振興基金 (公財)ミズノスポーツ振興財団
参加チーム人数	46都道府県より48チーム 選手 小学生男女3~6年 802名 指導者 143名 他 台湾協会より1チーム (招待試合)	45都道府県予選代表48チーム 選手 小学生男子・女子3~6年 830名 指導者 142名



②2016J.D.B.A.全日本選手権



中学生以上の競技者を対象に、ブロック予選を伴った形で開催した。
 初会場のこのはなアリーナに東北ブロック～九州ブロックまでの8ブロック代表32チームが集まり、小学生のプレイスタイルから進化した熱戦が展開された。現在はこのカテゴリーの協賛企業は無く、大きな変更は困難なものの、小学校卒業生の増加に応じて、競技者層の柱となるよう、引き続き計画を進める。
 審判員・運営スタッフも60人程度と小学生全国大会に比べて半分以下であったものの、地元静岡県協会を始めとした東海ブロックの多大な協力により、滞りなく実施された。

大会名	期日	会場名	参加チーム数
2016J.D.B.A. 全日本選手権	2016/10/16	このはなアリーナ	北海道を除く8ブロック代表32チーム (予選参加94チーム)

③第3回全日本女子総合選手権



2014年度より、小学生～社会人までの女子選手の総合大会として実施している。
 2016年度は前橋スポーツコミッションからの助成を得て、初の群馬県前橋市での開催となった。前橋駅に横断幕が掲げられ、開催地の群馬県協会を中心にブロックの協力体制も万全であった。
 事業内容としては、前回に引き続き、競技会に加え、ドッジボール日本代表選手によるアジアカップ報告会・練習会を実施した。
 多くの小学生選手にとっては引き続き好評であったものの、純粋な競技会を望む選手や、特に日本代表選手の立場と今大会参加チームとしての立場が重複する者にとっては、モチベーションの維持が非常に難しいという課題も生じた。

大会名	期日	会場名	参加チーム数
第3回全日本女子 総合選手権	2016年12月 10日～11日	ヤマト市民体育館前橋 メインアリーナ サブアリーナ	女子小学生(D1G)都道府県代表32チーム 女子中学生以上(シニア)ブロック代表 12チーム

2. 競技委員会

主催大会では競技運営を円滑に行うと共に、ルールの徹底、審判員の資質向上のため諸施策を実行した。常任委員会では審判員育成課題等、競技全般に関し情報交換、研究、検討を行い、全国大会時における審判クリニックでは各地域から派遣される審判員を通じ全国への周知を図った。

尚、中央研修会は、2015年度よりブロック主催の研修会に切り替えている。

B級公認審判員認定講習会

開催ブロック	開催日	開催場所	受験者	合格者
北海道	2017/2/19	恵庭市総合体育館(北海道)	3	1
東北	2016/9/3	仙台市立荒町小学校体育館(宮城県)	7	0
関東	2016/10/30	さいたま市立和土小学校(埼玉県)	12	4
北信越	2016/11/9	長野市立若槻小学校(長野県)	11	2
東海	2016/10/9	名古屋市立港南小学校(愛知県)	11	3
関西	2016/11/13	大阪市立柴島中学校(大阪府)	8	2
中国	2016/9/11	廿日市市立平良小学校(広島県)	9	4
四国	2016/12/18	八万コミュニティーセンター(徳島県)	10	0
九州	2016/6/7	アクション福岡(福岡県)	3	0
計			74名	16名

合格率はやや持ち直したものの、半数近くを占める再チャレンジの受験者に関して、前回受験後の是正（フィードバック）及び対策他が効果的に実施されていない傾向が伺えた。次年度からは、中央研修会で実践した指導内容等を基に受験準備段階における事前研修の方法や指導内容面に関する見直し（精査）を図り、また、指導ポイント要領の伝達を実施すると共に受験者本人の努力（向上心）を踏まえた上での推薦（見極め）を行なう様、確認を行った。



B級審判員数の伸び悩みとは別に、新規C級審判員は大幅に増え、総数は3600名に達し前年度比10%増となった。指導者講習会参加を機に新規取得・再取得した例が多くみられることから、今後の推移を見守る。

3. 普及委員会

①SMILEドッジスクール



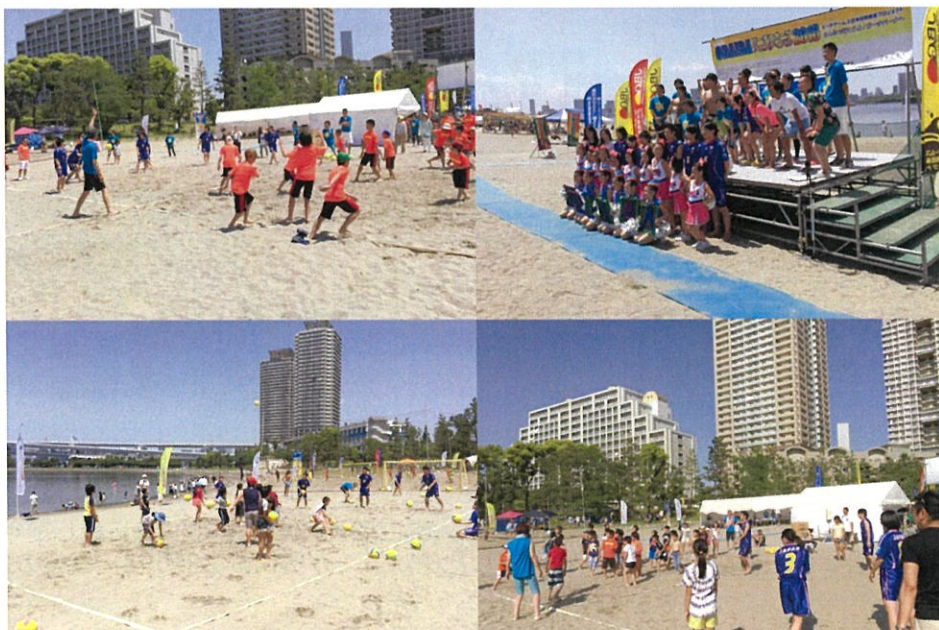
日程	会場	幼児	小学生
5月15日(日)	三萩野体育館 (福岡県北九州市)	22名	42名
5月29日(日)	出水市総合体育館 (鹿児島県出水市)	20名	55名
6月4日(日)	白河市国体記念体育館 (福島県白河市)	26名	34名
7月10日(日)	河西体育センター (青森県弘前市)	7名	24名

2014年度からの継続事業として「SMILEドッジスクール」(totoスポーツ振興くじ助成事業)を実施した。食育分野の説明役兼任は、選手の本来の役割から離れており無理があったため、今年度は外部の管理栄養士に依頼し編成した。回を重ねるごとに親子が共に参加する事業としての完成度は上がったものの、青森県においては参加人数が減少してしまい、活動規模が縮小している地域での開催手段に関して課題が残った。予想外の反応として、栄養指導に関しては児童に限らず親自身の健康に関する質問も多く寄せられた。

②JAPAN BEACH GAMES Festival 2016

2016年5月5日 お台場海浜公園 お台場ビーチ

体育館以外へのドッジボール普及の可能性を考え、日本ビーチスポーツ振興協会の主催事業へ参画した。過去に実施したものの、空白期間が長く、実質的な初年度のため、まずは代表選手の協力によるドッジボール教室及び簡単なゲームを実施した。今年度の内容を踏まえ2017年度はより効果的な実施内容を検討する。



4. 指導委員会

準指導員（区分II）の最終段階として集合学習④を富山県にて開催した。

集合学習①～④+ 考査（実習10時間+レポート提出による審査）に合格し、日本体育協会の共通科目以上の科目を修了した者は、日本体育協会への申請手続きを行えば、独自資格ではなく、日本体育協会公認のドッジボール指導員として認められることとなる。

公認指導者講習会 集合学習④	2016年10月22日(土)23日(日) 富山市総合体育館(富山県)	受講者17名 (対象は公認準指導者資格区分 I 取得者のみ)
-------------------	---------------------------------------	-----------------------------------

資格取得対象者176名の北信越越ブロックでの開催であり、事前に各指導者に協会ホームページやブロック会議等を通して各県協会に通知していたものの、目標数値の42.5%の受講者であった。「指導者としての理念や心構え、正しい知識や技能を習得するとともに、ドッジボールを普及する役割を担うことで地域社会において信頼される指導者の育成」という目的が置き去りになりかねないため、本来の趣旨を正しく伝える工夫が今後の課題となった。

但し準指導員（区分I）に関しては、移行期間3年間の有資格者約1600名と当初の目標900名を大きく超えており、資格義務化だけによる取得とは考えにくい。

指導に関する情報を求める関心自体は決して低くは無いと考えられ、今後のテキスト改訂や更新講習等を通じて情報を分析し、資格の価値を高めていくこととした。

5. 事業委員会

協会広報紙の製作



totoスポーツ振興くじ助成を受けて、協会活動を加盟協会協会内外に向けた広報紙2回の製作し、協会員・地方公共団体等へ発送した。

当初の目的としていた、全国大会・会員向け事業以外の情報掲載による協会外部への関心を広げるといった目的には前進したものの、製作時期は1月以降に重なり、駆け足での発行となった。

そのため、当事業においては、2017年度は振興くじ助成金の申請を中止し、広報目的の明確化やその際の最適な方法・時期を見直すこととした。



6. 日本代表活動事業

第3回アジアカップドッジボール選手権代表派遣



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター

日本代表選手団派遣、及び選手強化に向けた事業を実施した。

事業名	期日	開催地	参加者数
日本代表選考合宿	2016年 6月25日(土)26日(日)	山梨県山中湖村	54名(O13のみ)
日本代表選手強化合宿	2016年 10月10日(土)11日(日)	兵庫県たつの市	36名(O13のみ)
第3回アジアカップドッジボール選手権	11/25~11/28 (大会は26・27日)	香港	O13男子20名 O13女子16名 U12男子17名 U12女子18名 役員・審判13名 (同行家族23名)



アジアカップに於ける日本代表チームは、3カテゴリーで優勝、1カテゴリーで準優勝であった。特に台湾代表チームは力をつけており、2018年に韓国で開催が予定されている第4回大会に向けて、2017年度より2年計画で選手の育成を進めることとした。

7. 総務委員会

会議の開催状況

①評議員会

会議名	開催日	主な審議事項
定時評議員会	2016/6/24	2015年度事業報告・収支決算の承認 2016年度事業計画・収支予算の承認
臨時評議員会	2017/2/18	2017年度事業計画・収支予算の承認・会長交代の承認

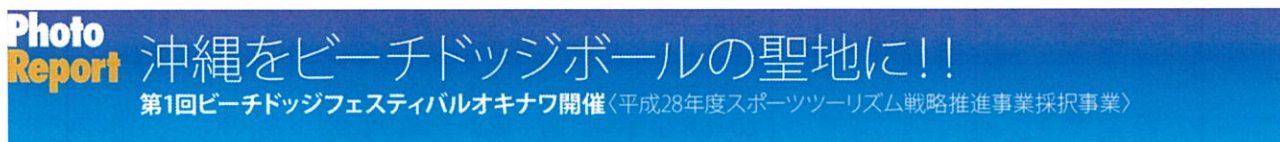
②理事会

会議名	開催日	主な審議事項
第1回	2016/4/24	(2016年度ミズノスポーツ振興財団助成金贈呈式) シニア・女子全国競技会の位置づけ確認 各事業の中期展望の確認 役員処遇確認
第2回	2016/6/11	2015年度事業報告・収支報告の承認 代表選手団選考進捗確認 第26回夏小全国大会・2016J.D.B.A.全日本選手権・第3回全日本女子総合選手権状況確認
第3回	2016/7/17	第27回夏・第28回春小学生全国大会開催地承認 代表選手団(O-13、U-12女子)承認 代表応援組織承認
第4回	2016/9/18	代表選手団(U-12男子)承認 シニア全日本競技方法確認
第5回	2016/11/20	公認指導者制度全体の再確認 D2制度協議
第6回	2017/1/15	2017全体事業計画承認 2016年度見通し、春小全国大会準備状況確認
第7回	2017/3/19	2017-2018理事候補者確認、春小全国大会準備状況確認

8. その他

当協会主催事業以外に、他団体との合同での事業、または外部団体の依頼により日本代表選手派遣活動を進めた。

- ❖ 第1回ビーチドッジフェスティバルオキナワ（2017年1月21日 沖縄県豊見城市豊崎・美らSUビーチ）



2017年1月21日、沖縄県豊見城市の美らSUNビーチにおいて、「第1回ビーチドッジフェスティバルオキナワ」が開催されました。当日は、県内外はもとより海外からも総勢52チームが参加し、大変な盛り上がりを見せました。その様子について、写真を中心にご紹介します。

■大会公式ソング「Make you happy」に集めて
大会では、盛りやかな雰囲気が漂っていました。観客も子どもも盛り上がり、見事な盛り上がりを見せました。式典の後、午前10時より大会開始。全試合で熱戦の嵐が吹きました。会場は盛り上がり、夜行、なの、熱戦の嵐が吹きました。男女2人制の試合は、大会公式ソング「Make you happy」を披露し、参加者全員が熱唱。会場は盛り上がり、観客も盛り上がりを見せました。

午後からは、大会公式ソング「Make you happy」に集めて。大会開始の始まり、観客も盛り上がりを見せました。式典の後、午前10時より大会開始。全試合で熱戦の嵐が吹きました。会場は盛り上がり、夜行、なの、熱戦の嵐が吹きました。男女2人制の試合は、大会公式ソング「Make you happy」を披露し、参加者全員が熱唱。会場は盛り上がり、観客も盛り上がりを見せました。

■ドッジボール、ビーチスポーツの可能性を広げるために
私たちの目指すのは、ドッジボールの世界的な普及を図ること、世界にこの大会の存在を知らしめることです。そのため、大会でも、海外からも、観客も盛り上がりを見せました。式典の後、午前10時より大会開始。全試合で熱戦の嵐が吹きました。会場は盛り上がり、夜行、なの、熱戦の嵐が吹きました。男女2人制の試合は、大会公式ソング「Make you happy」を披露し、参加者全員が熱唱。会場は盛り上がり、観客も盛り上がりを見せました。

※注意!
1. 大会のドッジボール大会は、2017年1月21日開催です。
2. 大会のドッジボール大会は、2017年1月21日開催です。
3. 大会のドッジボール大会は、2017年1月21日開催です。



- ❖ ビズドッジ（仮称）

11月9日	首都圏ポスティング組合事業「いい届」杯ドッジボール大会 (代表選手を審判員担当として派遣)
-------	--

例年、レクリエーション・企業の福利厚生の一環として、全く異なるルールを試験的に実施・提案している。

あてられて外野に出たらほとんど動かないままゲームが終わるといった状況にならないよう、内野外野の交代は前後半の切替時のみに制限し、全員が体を動かすことに比重をおいたポイント制のルールで実施した。



- ❖ 2016スポーツ祭り (<http://www.joc.or.jp/event/sportsfestival/>)
 (主催 文部科学省、(独)日本スポーツ振興センター、(公財)日本体育協会他)
 今回もオリンピック・アスリートの一員として3名を全体行事に派遣した。午後からはドッジボール教室を行い、選手の基本技術指導や、ハンディキャップをつけた対戦等の企画は大いに盛り上がりを見せた。

2016年10月10日 (月・祝/体育の日)	味の素フィールド西が丘 (東京都北区)
------------------------	---------------------



❖ スミセイアフタースクールプロジェクト (<http://sumiseiafterschool.jp/about/>)

住友生命相互保険相互会社・NPO法人放課後アフタースクールが主催している、本プロジェクトは3年目を迎え、常設の「健康」プログラムとして6会場での実施となった。

各会場40～80名の参加があり、同プロジェクトの中で最も希望の多いプログラムとなっている。2017年度も引き続き実施が決定している。

2016年8月10日(水)	吉川市立中曽根小学校(埼玉県吉川市)
2016年8月12日(金)	めむろ子どもセンター(北海道河西郡)
2016年8月22日(月)	若林区中央市民センター(宮城県仙台市)
2016年12月14日(水)	豊後大野市立千歳小学校(大分県豊後大野市)
2017年1月18日(水)	辰野町立辰野西小学校(長野県上伊那郡)
2017年3月29日(水)	ゆづかみ児童クラブ(栃木県大田原市)



※写真はスミセイアフタープロジェクト活動ブログより転載。

❖ 日本代表後援会・家族会発足

日本代表活動の本格化に向けて、関係者へ支援組織の構築を促した結果、当協会とは別組織として、日本代表後援会・家族会 (DJBF) が8月より発足した。

代表選手の負担軽減を目指し、選手の保護者だけでなく、幅広く支援金および協力者を集め、2016年度は代表選手の渡航費の一部+会食費相当額に関して支援を受けた。

第 8 期

計 算 書 類

2016年4月 1日から
2017年3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

貸借対照表

2017年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	12,303,292	6,423,469	5,879,823
商品	1,054,716	1,405,654	△ 350,938
前渡金	0	138,480	△ 138,480
立替金	10,180	0	10,180
未収入金	12,244,311	5,895,872	6,348,439
流動資産合計	25,612,499	13,863,475	11,749,024
2. 固定資産			
(1) その他固定資産			
工具器具備品	1	1	0
ソフトウェア	85,750	323,400	△ 237,650
保証金	414,000	414,000	0
その他固定資産合計	499,751	737,401	△ 237,650
固定資産合計	499,751	737,401	△ 237,650
資産合計	26,112,250	14,600,876	11,511,374
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	4,535,332	462,888	4,072,444
前受金	1,200,334	742,000	458,334
預り金	659,937	53,822	606,115
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税	365,400	875,700	△ 510,300
流動負債合計	6,831,003	2,204,410	4,626,593
負債合計	6,831,003	2,204,410	4,626,593
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	19,281,247	12,396,466	6,884,781
正味財産合計	19,281,247	12,396,466	6,884,781
負債及び正味財産合計	26,112,250	14,600,876	11,511,374

損益計算書（正味財産増減計算書）

2016年 4月 1日から2017年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会

（単位：円）

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
事業収益	20,307,679	12,108,935	8,198,744
登録料収益			
チーム登録料収益	4,620,000	4,824,000	△ 204,000
受取会費			
協会員受取会費	25,186,000	21,991,000	3,195,000
役員等受取会費	690,000	710,000	△ 20,000
加盟協会料収益			
加盟協会料収益	2,400,000	2,400,000	0
スポンサー料収益			
スポンサー料収益	8,286,166	9,912,000	△ 1,625,834
販売収益			
販売収益	10,908,141	12,207,254	△ 1,299,113
検定料収益			
公認球検定料収益	2,073,600	1,067,904	1,005,696
手数料収益			
手数料収益	1,635,028	1,110,634	524,394
受取補助金等			
受取助成金	12,448,000	7,051,000	5,397,000
雑収益			
雑収益	1,444,570	699,987	744,583
経常収益計	89,999,184	74,082,714	15,916,470
(2) 経常費用			
事業費			
謝金	869,000	907,458	△ 38,458
旅費交通費	16,139,109	7,091,124	9,047,985
宿泊費	4,873,272	3,857,134	1,016,138
事業支援費	15,947,100	15,860,800	86,300
事業大会視察	15,280	293,348	△ 278,068
賃借リース料	1,963,328	2,573,001	△ 609,673
制作費	6,470,433	4,565,693	1,904,740
用具費	3,609,183	1,380,494	2,228,689
通信運搬費	2,616,851	2,017,429	599,422
印刷製本費	2,449,551	3,636,029	△ 1,186,478
事業消耗品費	4,905,676	3,746,147	1,159,529
事業雑費	5,095,692	1,360,212	3,735,480
管理費			
給与手当	6,713,580	8,361,678	△ 1,648,098
通勤費	396,024	726,024	△ 330,000
法定福利費	1,108,751	1,384,358	△ 275,607
福利厚生費	62,160	71,610	△ 9,450
賃借料	3,163,336	3,135,252	28,084
リース料	209,952	388,449	△ 178,497
旅費交通費	1,127,168	855,006	272,162
通信費	398,784	382,999	15,785
運賃	871,623	776,894	94,729
発送業務委託費	43,416	78,408	△ 34,992
消耗品費	223,954	343,768	△ 119,814
顧問料	1,000,000	1,000,000	0
業務委託費	291,870	747,144	△ 455,274
会議費	0	42,626	△ 42,626
接待交際費	262,286	261,010	1,276
水道光熱費	337,699	391,628	△ 53,929
諸会費	466,000	581,250	△ 115,250
租税公課	806,300	878,950	△ 72,650
支払助成金	100,000	100,000	0
減価償却費	237,650	354,900	△ 117,250
雑費	269,375	271,569	△ 2,194
経常費用計	83,044,403	68,422,392	14,622,011
当期経常増減額	6,954,781	5,660,322	1,294,459
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	6,954,781	5,660,322	1,294,459
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	6,884,781	5,590,322	1,294,459
一般正味財産期首残高	12,396,466	6,806,144	5,590,322
一般正味財産期末残高	19,281,247	12,396,466	6,884,781
II 正味財産期末残高	19,281,247	12,396,466	6,884,781

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品……最終仕入原価法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産……建物は定額法、建物以外は定率法

無形固定資産……定額法

(3) リース取引の処理方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

税込方式で計上している。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高(直接法により減価償却を行っている場合)

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
工具器具備品	10,011,600	10,011,599	1
ソフトウェア	1,774,500	1,688,750	85,750
合 計	11,786,100	11,700,349	85,751

3. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

補助金等の名称	交付者	前期末 残高	当期増加額	当期減少額	当期末 残高	BS上の 記載区分
補助金・助成金						
加盟団体助成金	日レク	0	100,000	100,000	0	—
2016年度ジュニア育成に対する助成	ミスノ財団	0	500,000	500,000	0	—
スポーツイベント開催助成金	SSC	0	1,000,000	1,000,000	0	—
北九州市コンベンション開催助成金	西日本産業	0	1,800,000	1,800,000	0	—
平成28年度スポーツ振興基金助成金	スポ振興	0	5,581,000	5,581,000	0	—
平成28年度 スポーツ普及奨励事業助成金	スポ安	0	500,000	500,000	0	—
スポーツ大会等開催助成金	MSC	0	727,000	727,000	0	—
平成28年度スポーツ振興くじ助成金	toto	0	2,240,000	2,240,000	0	—
合 計		0	12,448,000	12,448,000	0	

財産目録

2017年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目		金 額		
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金				
現金手許有高		121,163		
普通預金	みずほ銀行神谷町支店	1,323,504		
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(賛助会員)	2		
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(振興くじ)	19,259		
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(JKA)	859,888		
普通預金	みずほ銀行神谷町支店(ｽｰｽﾞ振興)	909,455		
郵便振替	東京貯金事務センター(審判)	8,647,657		
郵便振替	東京貯金事務センター(積立金)	10,729		
郵便振替	東京貯金事務センター(ｽｰｽﾞ-ﾀｰ)	68,390		
郵便振替	東京貯金事務センター(祝賀会)	71,445		
郵便振替	東京貯金事務センター	271,800		
商品	賞状、テキスト、代表応援グッズ他	1,054,716		
立替金	ヤマトコレクト	10,180		
未収入金	ｽｰｽﾞ振興助成金他	12,244,311		
流動資産合計			25,612,499	
2. 固定資産				
(1) その他固定資産				
工具器具備品	大会用コート	1		
ソフトウェア	システム開発費	85,750		
保証金	事務局	414,000		
その他固定資産合計		499,751		
固定資産合計			499,751	
資産合計				26,112,250
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	事務局経費、春大会分他	4,535,332		
前受金	2017年度会費他	1,200,334		
預り金	源泉税、ビーチドッジ分他	659,937		
未払法人税等		70,000		
未払消費税		365,400		
流動負債合計			6,831,003	
負債合計				6,831,003
正味財産				19,281,247

貸借対照表総括表

2017年 3月31日現在

一般財団法人 日本ドッジボール協会

(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	12,303,292	0	0	12,303,292
商品	1,054,716	0	0	1,054,716
立替金	10,180	0	0	10,180
未収入金	3,424,811	4,732,500	4,087,000	12,244,311
流動資産合計	16,792,999	4,732,500	4,087,000	25,612,499
2. 固定資産				
(1) その他固定資産				
工具器具備品	0	1	0	1
ソフトウェア	85,750	0	0	85,750
保証金	414,000	0	0	414,000
その他固定資産合計	499,750	1	0	499,751
固定資産合計	499,750	1	0	499,751
資産合計	17,292,749	4,732,501	4,087,000	26,112,250
II 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	2,626,576	1,908,756	0	4,535,332
前受金	1,200,334	0	0	1,200,334
預り金	659,937	0	0	659,937
未払法人税等	70,000	0	0	70,000
未払消費税	365,400	0	0	365,400
元入金	△ 29,380,957	18,496,475	10,884,482	0
流動負債合計	△ 24,458,710	20,405,231	10,884,482	6,831,003
負債合計	△ 24,458,710	20,405,231	10,884,482	6,831,003
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産	41,751,459	△ 15,672,730	△ 6,797,482	19,281,247
正味財産合計	41,751,459	△ 15,672,730	△ 6,797,482	19,281,247
負債及び正味財産合計	17,292,749	4,732,501	4,087,000	26,112,250

損益計算書（正味財産増減計算書）総括表

2016年 4月 1日から2017年 3月31日まで

一般財団法人 日本ドッジボール協会


(単位:円)

科 目	一般会計	特別会計(大会)	特別会計(toto)	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
事業収益				
事業収益	2,728,339	7,641,360	9,937,980	20,307,679
登録料収益				
チーム登録料収益	4,620,000	0	0	4,620,000
受取会費				
協会員受取会費	25,186,000	0	0	25,186,000
役員等受取会費	690,000	0	0	690,000
加盟協会料収益				
加盟協会料収益	2,400,000	0	0	2,400,000
スポンサー料収益				
スポンサー料収益	6,904,000	1,215,500	166,666	8,286,166
販売収益				
販売収益	8,802,641	2,105,500	0	10,908,141
検定料収益				
公認球検定料収益	2,073,600	0	0	2,073,600
手数料収益				
手数料収益	1,492,578	142,450	0	1,635,028
受取補助金等				
受取補助金	100,000	7,108,000	5,240,000	12,448,000
雑収益				
雑収益	1,294,457	106,085	44,028	1,444,570
経常収益計	56,291,615	18,318,895	15,388,674	89,999,184
(2) 経常費用				
事業費				
謝金	434,000	235,000	200,000	869,000
旅費交通費	3,193,897	6,000,810	6,944,402	16,139,109
宿泊費	437,819	2,400,151	2,035,302	4,873,272
事業支援費	15,947,100	0	0	15,947,100
事業大会視察	15,280	0	0	15,280
賃借リース料	28,460	1,832,488	102,380	1,963,328
制作費	2,740,434	3,679,999	50,000	6,470,433
用具費	281,521	717,029	2,610,633	3,609,183
通信運搬費	141,643	1,325,406	1,149,802	2,616,851
印刷製本費	1,614,474	589,684	245,393	2,449,551
事業消耗品費	2,372,556	1,738,951	794,169	4,905,676
事業雑費	503,337	1,108,570	3,483,785	5,095,692
管理費				
給与手当	6,713,580	0	0	6,713,580
通勤費	396,024	0	0	396,024
法定福利費	1,108,751	0	0	1,108,751
福利厚生費	62,160	0	0	62,160
賃借料	3,163,336	0	0	3,163,336
リース料	209,952	0	0	209,952
旅費交通費	1,127,168	0	0	1,127,168
通信費	398,784	0	0	398,784
運賃	871,623	0	0	871,623
発送業務委託費	43,416	0	0	43,416
消耗品費	223,954	0	0	223,954
顧問料	1,000,000	0	0	1,000,000
業務委託費	291,870	0	0	291,870
接待交際費	262,286	0	0	262,286
水道光熱費	337,699	0	0	337,699
諸会費	466,000	0	0	466,000
租税公課	806,300	0	0	806,300
支払助成金	100,000	0	0	100,000
減価償却費	237,650	0	0	237,650
雑費	269,375	0	0	269,375
経常費用計	45,800,449	19,628,088	17,615,866	83,044,403
当期経常増減額	10,491,166	△ 1,309,193	△ 2,227,192	6,954,781
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	10,491,166	△ 1,309,193	△ 2,227,192	6,954,781
税引前当期一般正味財産増減額	10,491,166	△ 1,309,193	△ 2,227,192	6,954,781
法人税、住民税及び事業税	70,000	0	0	70,000
当期一般正味財産増減額	10,421,166	△ 1,309,193	△ 2,227,192	6,884,781
一般正味財産期首残高	31,330,293	△ 14,363,537	△ 4,570,290	12,396,466
一般正味財産期末残高	41,751,459	△ 15,672,730	△ 6,797,482	19,281,247
II 正味財産期末残高	41,751,459	△ 15,672,730	△ 6,797,482	19,281,247

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2017年 6月18日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 畑 敬 

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2016年度(自2016年4月1日至2017年3月31日)の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2017年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上

監査報告書

一般財団法人日本ドッジボール協会
評議員・理事 各位

2017年6月20日
一般財団法人日本ドッジボール協会

監事 山田 上

私は、一般財団法人日本ドッジボール協会の、2016年度(自2016年4月1日至2017年3月31日)の会計並びに業務について監査を行い、次の通り報告します。

記

1 監査方法の概要

- ① 会計監査については、帳簿及び関係書類を調査し、担当役員及び事務職員に質問を行い、貸借対照表、損益計算書及び財産目録の計算書類の正確性を検討した。
- ② 業務調査については、必要書類を調査し、かつ担当役員及び事務職員に質問を行うなど必要と思われる監査手続きを実施して、会計遂行の妥当性を検討した。

2 監査意見

- ① 上記会計の計算書類は、会計帳簿の金額と一致し、一般財団法人日本ドッジボール協会の2017年3月31日現在の財産状態及び同日を以って終了する事業年度の損益を正しく示しているものと認める。
- ② 事業及び会計報告書の内容は、妥当なものと認める。
- ③ 理事の会計執行は公正に運営されており、法令及び一般財団法人日本ドッジボール協会定款に照らし、特に指摘すべき事項はない。

以上

